

家之紋

家之紋

旗

馬印

圓居

歩行頭指物

香頭指物

同

行指物

同

鉄炮物頭指物

同

使番指物

同

家中番指物

出ゝ銘・好次第

組頭圓居

自紋

相

文書館 もん じょ かん ニュース

山口県文書館

Yamaguchi Prefectural Archives

No.54

contents

- 徳山毛利家文庫の世界 2/3
- 歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議 4
- 「事務」の現代 ―コード化と電算化― 4
- 令和元年度の新収諸家文書の紹介 5
- 明治末～昭和戦前期の工事写真をウェブ公開 6
- 古文書講座Q & A 6
- 当館のデジタル読み物 7
- 文書館所蔵の国勢調査関連資料 7
- アーカイブズガイドー学校教育編ー 8

「御紋御書出」(毛利家文庫 15 文武 56)より
徳山毛利家分の家紋・旗指物

徳山藩の藩政文書

徳山毛利家文庫の世界

徳山藩は、元和三年（一六一七）に萩藩主毛利秀就が弟就隆に三万石を分知、寛永十一年（一六三四）に幕府の公認を得たことに始まります。当初就隆は居所を下松に構え、のち慶安元年（一六四八）に徳山（現周南市）に移転しました。徳山藩は萩藩を本藩とする支藩という立場にありましたが、時には本藩と対立し、正徳六年（享保元年、一七一六）には藩が断絶するという事件も経験しました。しかし享保四年、藩の再興が叶い、明治四年（一八七二）の廃藩置県直前に山口藩へ合併するまで存続しています。令和元年（二〇一九）は徳山藩再興三百年にあたりました。

当館が所蔵する徳山毛利家文庫は、江戸時代、徳山藩の藩主であった徳山毛利家に伝来した文書・記録群です。昭和三十八年（一九六三）に当館に寄託されました。総数は約四万点です。年代は藩草創期から昭和期までと幅広く、特に藩再興以後のものが中核を占めています。質・量ともに豊かな文書群と言えます。徳山藩の藩政文書「徳山毛利家文庫」の一端を紹介しましょう。



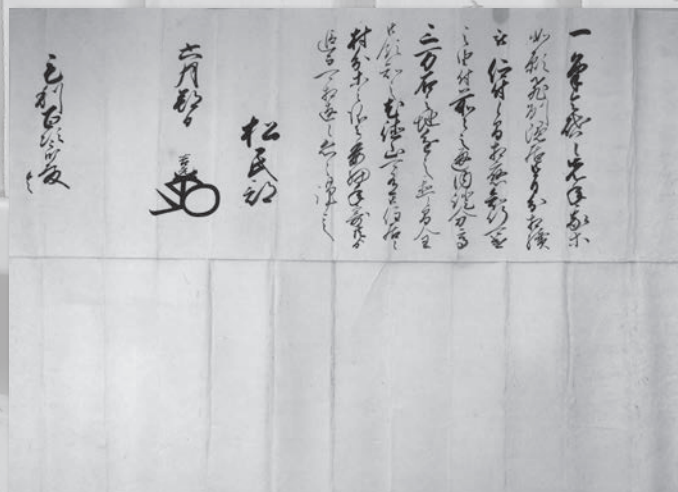
宝暦 7～9 年(1757～59)「御蔵本日記」(No.431～448)

(B)

一紙物の文書の公開も少しずつ始めています。(A)は8代將軍徳川吉宗の書状(写真にあるような形態の將軍発給文書を「御内書」と言います)、(B)は改元に関する老中の奉書です。いずれも徳山藩主宛です。一紙物の文書は、実際に手に取ることで紙の大きさや厚さを知ることができます。現物の語る魅力を是非実感してください。

(A)「徳川吉宗御内書」(徳川將軍発給文書No.18)

(B)「江戸幕府老中奉書」(幕閣発給文書No.6)



徳山藩 4 代藩主となる毛利百次郎に宛て、
徳山藩再興を知らせる萩藩主毛利吉元の書状(木箱別置 6-5(6)の 1))

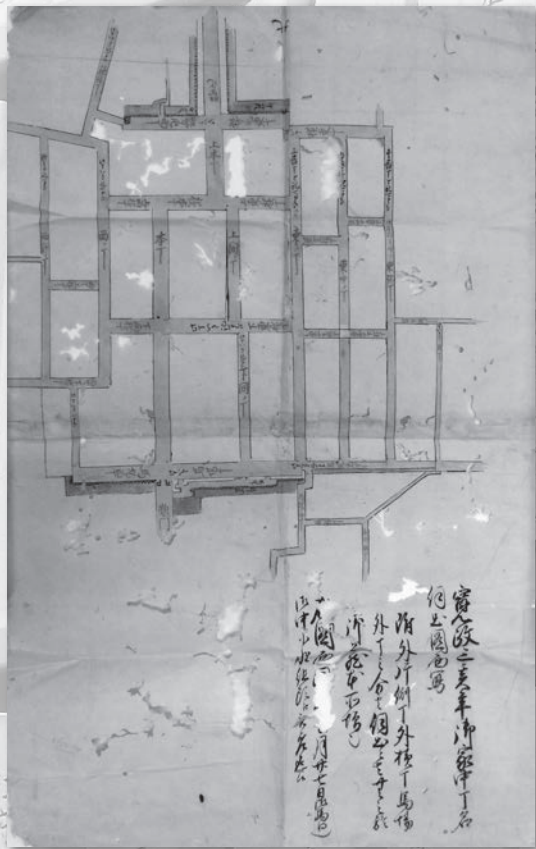
一紙物の文書の中には、木箱に保存されてきたものがありました(24 箱)。これらは伝存秩序を尊重し、他と混同しないよう「木箱別置」と名付けて閲覧・利用に供しています。その中には、徳山藩再興とその後に関する文書や、江戸に参向した公家の饗応関係資料などがあります。



明治 35・37～39 年(1902・04～06)「用達所日記」(No.53～56)

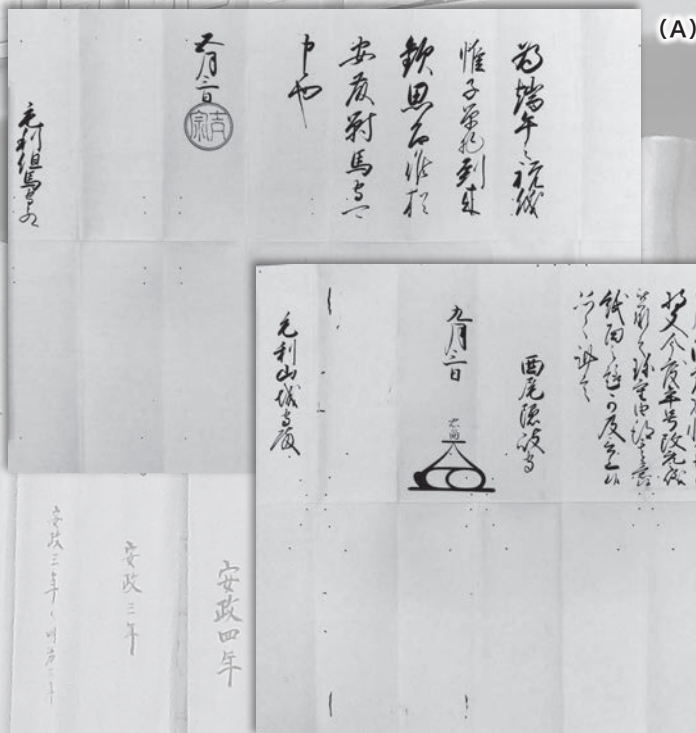
近代毛利家の家政を担った用達所の日記類です。徳山毛利文庫には、明治以降、徳山藩主毛利家が子爵となつてからの記録も豊富に残っています。近代華族の動向を知る上でも欠くことのできない資料群と言えるでしょう。

現在閲覧・利用に供しているものの中核は冊子形態の文書です。約1万4千点を数えます。その中でも各役所の日記類が多く残されているのが特徴的です。右は、国元に設けられ、藩の機構の中枢にあった「御蔵本」で日々つけられた日記、「御蔵本日記」です。藩内のできごとを書き留めているので、内容は多岐にわたります。このほか、藩主の動向を記した「御居間日記」、藩の記録を掌った記録所作成の「記録所日記」などもあります。日記以外には、藩の主要法令を発令年ごとに記録した「大令録」、藩士の由緒を差し出させた「譜録」など、当時の藩の様子を知ることのできる記録が豊かに残っています。



「寛政三亥年御家中町名同出図面写」(絵図No96)

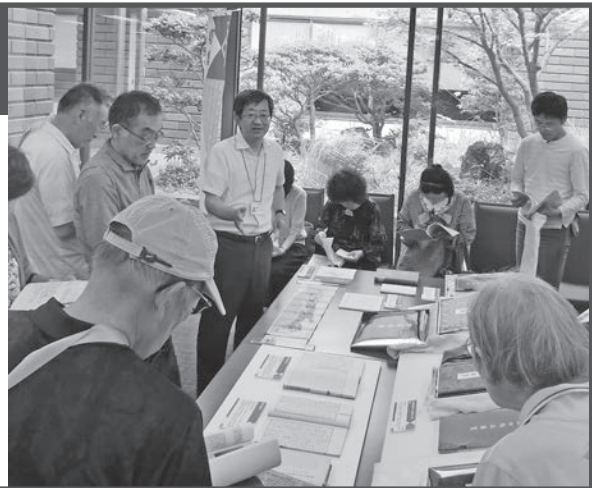
徳山毛利家文庫には絵図も含まれています。藩領域に関する絵図、本陣や御茶屋、寺社の差図など様々です。上は寛政3年(1791)の徳山の中心部の「丁名」(ここでは「通りの名」)を示した図です。画面上が御館方面、一番下の左右に伸びる太い道は「馬場丁」とあって、徳山藩自慢の「桜馬場」に隣接した通りです。



第14回中国四国地区アーカイブズウィーク

情報と記録 ～つたえる つなぐ 文書館～

令和元年度、当館は開館60周年を迎えました。これを記念し、「情報と記録」をテーマにアーカイブズウィークを開催しました(6月1日～9日)。防長の歴史のなかで、さまざまな個人や組織が情報や記録をどのように集め、伝え、遺してきたのか、所蔵資料からその歴史をふりかえりました。アーカイブズ展示は、「収集 アツメル・シルス」「活用 ツカウ・イカス」「継承 ツナグ・ノコス」「伝達 ツタエル・ツタワル」という4つの視点で行いました(展示解説シートはウェブサイトからダウンロードできます)。歴史探究講座では、山崎一郎・吉田真夫専門研究員が当館所蔵の藩政文書「毛利家文庫」と「徳山毛利家文庫」の歴史を紹介しました。当館職員によるアーカイブズ歴史小話も「情報と記録」をテーマに行い、好評でした。



第一〇回

「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」の開催



令和元年十月三十一日、山口県立山口図書館第二研修室において第一〇回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しました。これは、平成二十二年度から年一回、県内市町の文書管理や文化財保護の担当者などを対象とした当館主催の会議です。今年は二四名の参加者がありました。今回は、「古文書をどのように取り扱うのか」という課題を解決する第一歩として、倉庫や書庫などの片隅に置かれて、ややもすれば存在が忘れられがちになっている古い文書にアプローチするためにはどうしたらよいかについて考えることをテーマに設定しました。

会議の前半は、まず当館の和田秀作専門研究員が、「古文書の整理や保存、活用について」と題して、当館の取り組みを紹介しながら基本的な考え方を説明しました。続いて、普段は非公開の書庫に参加者を案内して、古文書の収納状況や保存環境などをその目で確認していただきました。後半は、演習「目録の採り方」において、古文書を整理する際の中心的な作業を演習シートにもとづいて体験していただきました。参加者はそれぞれの習熟度に応じて熱心に取り組み、「こういうやり方でも良いのなら、少しはできるかも」といった声も挙がりました。

最後は、事前に参加者から提示された協議題をもとに、情報交換を行いました。各自が日頃の業務の中で抱えている疑問や課題について認識を深め、悩みを共有するきっかけとなったと思われます。引き続きこの会議を通して、市町の方々と連携しつつ、歴史的公文書等の適切な管理・保存が進むよう努めていきたいと思っています。



「一九七〇年代行政資料から」

「事務」の現代——コード化と電算化——

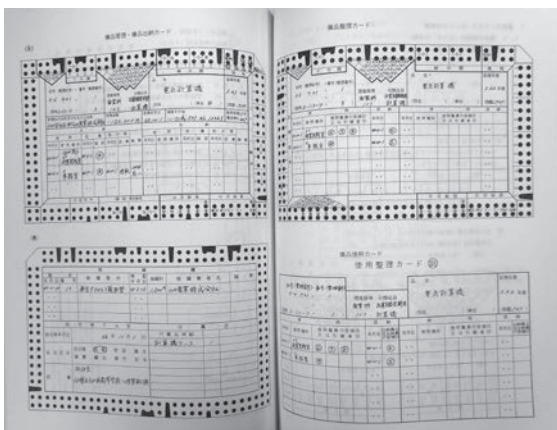


一九七〇年代は、高度成長から安定成長へと舵を切った時代、公害対策が本格化した時代といった印象が強いですが、事務の現代化という点でも画期となった時代です。山口県では、属人的だった業務の合理化と効率化を進めた六〇年代に続き、機械化、省力化が模索されたのが七〇年代でした。

たとえば物品管理において、山口県庁では昭和三十六年（一九六二）に物品分類などのコード（符号）化を終えカードシステムを導入します。同四十四年には電子計算機準備室が設置され、電子計算機システムの導入に向かいます。まだコンピュータの処理能力が現在ほど高くなかった当時、管理対象の分類とコード化は不可欠でした。県庁では六〇年代に作成したコードを基に電算化を進めていったようです。

興味深いのは、県立学校ではこの動きが一〇年近く遅れることです。「第二八回全国公立高等学校事務職員研究大会研究集録」（各種団体二八八九）に収められた山口県の事例報告によると、県庁と高等学校とは使用物品も物品管理法も大きく異なっていたために、独自にコード化をおこなう必要があり、導入に時間がかかったとのことでした。

コード化も電算化も、それまでの業務のあり方、考え方に大きな変更を迫るものでした。この資料からは、現場がそれをどのように受け止め、説明し、消化していったのかがうかがうことができます。



第28回全国公立高等学校事務職員研究大会研究集録（各種団体2889）

令和元年度の

新収諸家文書を

紹介します！

今年度、一七家・一、二一点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中からふたつの文書群を紹介します。

■堅田家文書

堅田家は、毛利元就の家臣粟屋元通の次男元慶を祖とします。江戸時代には、萩藩寄組に属し、当職、当役、加判役などの要職を歴任しました。知行高は六、一二六石余りで、主な知行地は、周防国都濃郡戸田や湯野（現、周南市）などにありました。

文書は、初代元慶より親正の堅田家当主が、主君の毛利家から名前や官途を与えられたことを示す加冠状・官途書出・一字書出の類からなっています。当館には既に堅田家に伝来していた文書群が複数ありますが、またひとつ加わりました『文書館ニュース』38号参照。

■三輪家文書

三輪家は、江戸時代、萩藩領舟木宰判船木市（現、宇部市船木）に数代にわたり居住し、酒造を営む傍ら、市年寄などを務めていました。しかし、大火で大損害を蒙ったことから、親類を頼って先大津宰判小田村（現、長門市）に移住し、その後小田村の近隣の向津具上村（現、長門市）の庄屋を務め、一代帯刀を許されました。

文書は、三輪七右衛門が、先大津宰判向津具上村の庄屋に任命された文書を除けば、三輪家が「家」としての活動により作成・授受した文書からなっています。なかでも、萩藩一門の大野毛利家との深いつながりをうかがわせる文書が大半を占めており、大野毛利家初代就頼（政春）、二代就詮、本来は就詮の後継者であった就豊や広為の書状など、比較的早い時期のものがまとまって残っているのが特色です。その他、三輪家が舟木から小田へ移住した際の願書は、村役人クラスの家が宰判を越えて住居を替えた際の事情や手続きがうかがえるものです。



堅田家文書 No.3 毛利輝元受領書出

■令和元年度の新収諸家文書

No.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴（関連地域、個人・家の歴史、就任役職等）
1	阿川家文書	53	近世～近代	萩藩士（中間）
2	有馬家文書	34	近世～現代	庄屋
3	大本氏収集文書	12	近世～近代	コレクション／陪臣（吉敷毛利家臣）ほか
4	堅田家文書（山口市）	16	中世～近世	萩藩士（寄組）
5	金谷家文書	196	近代～現代	商家／教員
6	佐伯隆収集文書（追加）	8	近代	コレクション
7	穴戸家文書（山口市／追加）	39	近世～近代	萩藩士（寄組）
8	白石健二収集史料（追加）	26	現代	事務職員
9	田中栄一収集文書（追加）	151	近世～現代	コレクション／下貼文書
10	中川七助文書	20	近代	軍人（海軍機関兵）
11	林家文書（山口市／追加）	111	中世～近代	萩藩士（大組）／陪臣（福原家臣）
12	古畑家文書（追加）	49	近代	コレクション／両公伝史料／旧村役場文書
13	松前謙助文書	183	近代～現代	朝鮮総督府検事
14	三輪家文書	88	近世～近代	市年寄／庄屋
15	村上家文書（柳井市／追加）	29	近世～近代	庄屋／村会議員
16	山口市仁保一貫野上組共有文書	76	近代	区有
17	吉永敏男収集文書	20	近世～現代	コレクション／旧村役場文書

明治末～昭和戦前期の工事写真を ウェブ公開しています ～清川家文書より～



当館所蔵の清川家文書から、明治末～昭和戦前期の工事写真三二九枚をウェブサイトに公開しています。清川忠雄氏は、当時、内務省技師として全国各地の工事現場を担当した人物です。富士川下流事務所勤務された時期があり、利根川改修工事（明治三十三～昭和五年度）にも携わりました。忠雄氏は、関わった各現場の写真を残しておられ、これらが平成二十六年清川家から寄贈されました。

写真には、大正十年代撮影の鬼怒川護岸工事、昭和五年十月十五日埼玉県栗橋町（現久喜市）で挙行された利根川改修工事竣工式、昭和八年小郡・大蔵間（現山口市）の道路舗装工事など、時期、地域、工事内容が判明するものがある一方、それが特定できないものも数多くあります。ウェブ公開により多くの方に見ていただくことで、各写真への理解が深まっていけばと考えています。



1. 清川家文書139-02



2. 同145-08



3. 同145-24

- 1 埼玉県栗橋町（現久喜市）での利根川改修工事竣工式（昭和五年十月十五日）
- 2 小郡・大蔵間道路舗装工事（昭和八年）
- 3 河川工事現場（年・場所未詳）

古文書講座Q&A!



多数のご応募をいただいている古文書講座について、よくある質問をご紹介します。

Q1.. 日本史が苦手だったのですが、ついていけるでしょうか？

A.. 講座は習熟度に合わせて、基礎・専修・実践の三講座を用意しています。安心して一緒に勉強していきましょう！

Q2.. 基礎講座から始めて、一年ごとに次の講座に進級しないといけませんか？

A.. いいえ。ご自身の状況に合わせて講座をお選びください。但し、同年度内での講座の移動はできません。一年間は頑張りましょう。

Q3.. 同じ講座を連続して受講する場合、抽選の時に不利になりますか？

A.. なりません。現在、基礎講座については、古文書を学ぶきっかけをできるだけ多くの方に提供するため、前年度同講座に応募して落選された方を優先することになっていますが、それ以外の方は横一線での抽選になります。

Q4.. ぐずし辞典などは買わないといけませんか？

A.. 辞典類は図書館におおよそ揃っています。まずはそちらを使い、必要だと感じてから買い揃えても遅くはありません。

Q5.. どうしたらすぐに読めるようになりますか？

A.. 字形だけでなく、表現や文脈、背景知識などの蓄積がものをいいます。地道に増やしましょう。

Q6.. 募集要項に「原則的に一〇回参加できる方」とありますが、都合で来られない時もありそうな場合、応募してはいけませんか？

A.. やむを得ないことは当然あると思います。その場合にはお休みされる前にご連絡ください。これ以外のこともお気軽にお問い合わせください。



当館の「デジタル読み物」です!
<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/index/page/id/674>



当館のトップページから「デジタルアーカイブ」↓当館のデジタル読み物」とたどっていただくと、当館が編集・作成したもののうち、PDFでダウンロードしてお読みいただける読み物を集めたページになります。

当館の『研究紀要』『文書館ニュース』(いずれも第一号〜最新号)、『山口県文書館の30年』(平成二年)、『年報』(平成二十一年)のほか、『山口県文書館アーカイブズガイド』

幕末維新編』(平成二十三年)、『山口県文書館アーカイブズガイド 学校教育編』(平成二十三年)、『アーカイブズウィーク 展示解説シート』(平成二十七年)『文書館

動物記』書庫に棲む動物たち』・二十八年「いやすなおすたもつ」文書館資料にみる病氣・医療・健康』・二十九年

「防長と海」その記録と記憶』・三十年「文書館レキシノオト」

音で読み解く防長の歴史』・令和元年「情報と記録」つたえる

つなぐ文書館』などの一般向け読み物、月間小展示解説シート

ト」、また古文書の独習に役立つ「Web古文書基礎講座」・「古文書実践講座解説資料」などを

読むことができます。

当館のエッセンスが詰まったページです。ぜひ活用ください。



平成30年度解説分

解説年度	タイトル	請求番号	サイズ
H30	明治3年(1870)創業日記を読むー毛利敬親・元徳の日々ー 第1版	毛利家文庫19日記30	4.1MB
H30	延宝主参勤交代の記録を読むー「元文2年(1737)参勤御道中記録ー但馬路」ー 第1版	毛利家文庫47参勤11(763)	3.9MB
H30	中世〜近世の武家文書を読むー永田秘録「諸家証文」ー	右田毛利家文庫1535	2.7MB

1. 旅日記

解説年度	タイトル	請求番号	サイズ
H24〜27	文化2年(1805)山口町人安部氏の奥州旅日記 第3版	安部家文庫513・525・529	12.05MB
H25	九州旅日記ー寛政8年(1796)柳井村小田氏の旅・文政6年(1823)柳井津町小田氏の旅ー	小田家文庫(柳井市金庫)899・542・小田家文庫(柳井市和田)309	2.79MB
H26	四国旅日記ー文政5年(1822)柳井津町小田氏の旅ー	小田家文庫(柳井市金庫)498	1.95MB
H27	山口町人安部家の中国四国旅日記ー19世紀前期「石見・出雲国紀行」ー	安部家文庫535	4.02MB
H27	柳井津小田家の奥州旅日記ー万延元年(1860)「いつくしま日記」ー	小田家文庫(柳井市金庫)913	2.53MB
H27	柳井津小田家の金毘羅参詣ー明治4年(1871)「金毘羅参詣」ー	小田家文庫(柳井市金庫)924	2.76MB

実践講座受講生が解説した古文書を紹介するページ

文書館所蔵の国勢調査関連資料 大正九年、国勢調査始まる



大正九年(一九二〇)十月一日、第一回国勢調査が実施されました。「社会を数値で把握する」ことは当時の「一等国」としての必須条件であり、その実現は、近代日本にとつての宿願でした。調査の完璧を期するため、調査員向けの講習会が開かれ、調査の趣旨や手法を丁寧な説明した解説書も作成されました。調査票記入にあたりペンを使用する場合には、にじみを防ぐため、東京丸善で販売されているブルーブラックのインクを用いるよう銘柄指定の通達が出されるほどの念の入れようでした。ポスター・チラシ・新聞広告・気球・数え歌など、「我国創始の大事業」を迎える喧噪で世間はおいしくなっていました。

国勢調査に携わることには社会的なステータスでもあったため、調査員任命状・徽章・感謝状・記念写真帳・記念品などの関連資料は地域の名望家の元で大切に保存されてきました。当館の諸家文書(和泉家、佐川家(大島町)、藤津家、河崎家(美祿市)、藤井家、剣持家文書等)の中にも、それらを多数みつけることができます。



記念絵葉書
 (和泉家2)



国勢調査予告ピラ
 (佐川家(大島町)1154)



記念銀杯
 (和泉家5)



調査記念章(和泉家4)

資料紹介

■山口県文書館所蔵アーカイブズガイド ～学校教育編～ ～授業で使える文書館資料を紹介しています!～

文書館は、学校の授業に活用できる資料を豊富に所蔵しています。これらを教員のみなさんに使っていただくため、特に視覚的に優れたものをピックアップし、わかりやすい解説をつけた資料集「山口県文書館所蔵アーカイブズガイド-学校教育編-」の編集を平成23年度から続けています。

現在、中学校の歴史教科書の項目にリンクさせた213件のトピックを用意し、資料をウェブサイトで公開しています。授業でのちょっとした話題として、教室の子供たちに伝えてみてはいかがでしょうか。各資料には教科書の記述に即した解説をつけていますので、中学校はもとより、小学校・高等学校でも活用が可能です。紹介している資料は、一部を除き、当館で実物を閲覧することができます。

当館は、この資料集が文書館と学校教育現場をつなぐ架け橋となることを願っています。活用に当たり、ご質問等ありましたら、どうぞお気軽に文書館にお問い合わせください。

(Webサイトへの入り口はこちら)→

(<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/index/page/id/524>)

[yamaguchi.lg.jp/index/page/id/524](http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/index/page/id/524))



トピックの例 「産業の発展と鉄道の建設(鉄道競争すごろく)」

写真上のすごろくは、1925(大正14)年、鉄道の営業距離が1万マイルを超えた記念に『大阪毎日新聞』と『東京日日新聞』の両社がおこなった「全国鉄道競争」をゲーム化したもので、『大阪毎日新聞』のお正月の付録としてつけられたものです。説明によると、さいころを振って、一番早く全国各地の主要な駅を回って帰った者が勝ちとなっています。当時の主要な路線、駅名、各地の特産物、名所、軍事的要衝などが書き込まれており、山口県では、くじら・ふぐなどの海産物、錦帯橋・湯田温泉などの観光地が見えます。新しく鉄道が建設され、鉄道の距離が伸びていくことが、産業発展の象徴であり明るい未来の象徴であった時代の雰囲気がよく伝わってくる資料です。(「大阪毎日新聞第14943号附録壹万哩記念・鉄道競争すごろく」(津田家文書(千葉県)653))



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1

TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00

【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。

閲覧室へは2階へお上がり下さい。

※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。